

ふれあい

2013年 秋季号 vol.52

2013年(平成25年)11月15日発行

日本医療機能評価機構認定病院 医療法人社団 浅ノ川 金沢脳神経外科病院 広報誌
発行所/広報企画室 石川県野々市市郷町262-2
TEL:076-246-5600 FAX:076-246-3914 http://www.nouge.net



病院理念

脳神経外科専門病院として私達は患者の皆様により高度の医療技術を提供し、公平で平等な患者中心の医療を行います。

基本方針

1. 患者の皆様のご権利と人間性を尊重した温かい医療の提供に努めます。
2. 地域の医療機関と連携を行い、患者の皆様が安心と満足の得られる医療の提供に努めます。
3. 脳神経外科専門病院として、地域の救急医療の提供に努めます。
4. 急性期から回復期リハビリ、慢性期の一貫した医療を提供します。
5. 患者の皆様に対して、適切な言葉と態度を心がけるよう努めます。
6. 患者の皆様のご意見、ご希望を医療に反映させるよう努めます。

患者の皆様のご権利

私達は患者の皆様のご権利を尊重し、信頼に基づいた医療を行うため、患者の皆様のご権利に関する宣言を掲げます。

1. 適切で最善の医療を公平に受ける権利
2. 検査や治療について真実を知り、十分な説明を受ける権利
3. 検査や治療を受ける権利と受けることを拒否する権利
4. プライバシーの秘密保持を得る権利
5. 病院や医師を自由に選択し、あるいは変更する権利

変幻窮まりない神経痛、つきあい方を知る



病院長
佐藤 秀次

神経が慢性的に出す痛みは気候の影響を受けることはよく知られています。寒冷前線が近づくと、天候が崩れる前から痛みが強くなる人、つまり、痛みが天気予報になる人がいます。これとは逆に暖かい時には痛みは軽くなります。神経痛の方は身体を冷やすな、温かくせよと言われてきたのはまさに先人の経験が産んだ知恵なのです。

不安が神経痛を増強することは良く知られています。不安と痛みは増幅回路を形成することがあります。つまり、痛みが人を不安にさせ、不安が痛みを増強する。この回路が痛みを慢性化させ、難治性にする場合があります。痛みがこのようにして慢性化すると不安はうつ状態を引き起こし、一般的な鎮痛剤が効果を失うことが起こります。抗うつ剤には痛みを抑制する作用のあることが知られており、慢性的

な神経痛で処方されるのはそのためです。

痛みの存在を忘れていた時、すなわち何かに夢中になっている時に痛みを忘れていたことがあります。好きな酒を飲んでいたり、好きな歌を聴いている時などがこれに当たります。さらに、日中は周囲に関心が向かう対象が多く存在するため、痛みは紛れますが、夜は痛みとまともに向き合ってしまうため、耐え難く強くなる場合があります。

痛みの強い部位に湿布を貼っていると、痛みは和らぎます。これは湿布のもつ痛みの抑制作用です。腰が悪くて足の痛みが出ている場合でも、病気のある腰とは全く関係のない、その部位から遠く離れた足に湿布を貼ることで痛みは軽くなるのです。これは湿布が直接に腰の悪いところに作用しているわけではないのです。

ざっとあげても、神経痛はなんと様々な影響因子を持つことでしょ。これらを利用したり避けたりすることで、痛みの軽減を図ることが出来るという事なのです。



お知らせ
神経内科外来の
診察日が増えました。

これまで神経内科外来は月曜日と木曜日の週2回の診察日でしたが、10月より金沢大学神経内科の坂井健二先生による診察も始まりました。坂井先生は神経内科全般を担当されます。主に頭痛や目まいといった症状をはじめパーキンソン病でんかんなどの病気を診察します。診察日は土曜日ですが、毎週ではありませんので、事前に診察日をご確認ください。

また、神経内科の診察は予約制ですので、診察を希望される場合は当院までお電話ください。



坂井先生

10月から2回
土曜日に診察しますので、
よろしく願いいたします。

予約の受付時間

月曜～金曜 9:00～16:30
土曜 9:00～12:00

予約電話番号(直通)

076-246-4899

医療と介護 の連携

地域医療福祉部
地域医療連携課

脳卒中になられた方が、地域で安心して質の高い生活を送ることができるよう、野々市市と白山市の介護サービスを紹介しています。



今回紹介するのは、『訪問介護サービス』についてです。訪問介護員(以下ホームヘルパー)が、食事や排泄、衣服の着脱、入浴、外出等の身体介護と、掃除や洗濯、買い物等の日常生活のお世話をする生活援助を行います。利用者さんの自宅で、指定された時間に行うサービスです。独居の方や家族が家事や介護を行うことが難しい場合に利用されています。

※介護保険の申請については、お住まいの地域の市役所にご相談ください。

野々市市役所(介護長寿課)

076-2227-6066

白山市役所(長寿介護課)

076-274-9529

地域事業所紹介

大門園 訪問介護サービスセンター

(特色) 若手の30代から経験豊富な50〜60代までの職員が揃っています。

(職員) 常勤ホームヘルパー3名、登録ホームヘルパー5名

(利用者) 約60名
(ホームヘルパーより)



以前は、週1回程度の安否確認を兼ねた掃除のサービスが主流でしたが、最近では、毎日の調理や服薬のお手伝いを希望されるケースが増えています。独居の方をはじめ、同居していても家族が昼間不在の方や息子の帰宅が遅い二人暮らしの方などが、サービスを利用しています。

たとえ独居でも、地域で常に見守り可能な生活環境となるように、休日は家族の訪問、平日は訪問介護や訪問看護、デイサービスなどを併用し、うまくご自分の生活にサービスをとりいれている方もいます。その中でもホームヘルパーの関わりは大きく、起床後のオムツ替えや朝食の準備、デイ

サービスの準備や送り出しなど、まさに利用者さんの生活に密着しているといえます。

さらに以前、服薬困難になってきた認知症の利用者さんのために、お薬を1日1回の服用にするなど、かかりつけ医の先生による配慮がありました。こうした多くの地域の方々によって、利用者さんの生活は支えられています。

(仕事に対する想い)

認知症の利用者さんが、忘れないうちに日々のことを手帳に記録しているのを目にしたことがあります。それでも忘れてしまい、子供に迷惑をかけたと落ち込んでいたことがあります。認知症になった自分を否定する利用者さんに対して、ただお話しを聴いて励ましの声をかけ続けました。

ホームヘルパーは技術的な面はもちろんですが、大きな気持ちで受け止められるような包容力や話しかけやすい雰囲気をもっていることも大切です。また一番最初に利用者さんの変化に気づくことができる存在でもあるので、少しの変化でも気がつけるよう心掛けています。

さらに独居の方で、ご家族の関わりが少ない場合は、灯油補充の連絡などの際に、利用者さんの様子をお伝えしています。あくまで

も利用者さんへのサービスが中心ですが、ご家族と利用者さんをつなぐパイプ役となり、時には利用者さんのご近所と関わることもあるので、目に見えない大事な役割を担っていると感じていきます。

また70〜80代の方が多い利用者さんですが、とても若くて驚くことがあります。お買い物やサービスでは、チラシの特売商品をしつかりチェックされていたり、調理のサービスでもスパゲッティやロールキャベツなどの具体的なメニューを希望されることもあります。

多くの利用者さんに毎日接することで、こちらがパワーをいただくこともあり、こうした日々の関わりが楽しくてやりがいにつながっています。



大門園訪問介護サービスセンター

住所 石川県白山市佐良口123番地

TEL 076-255-5784

月曜日～日曜日(毎日) 7:30～18:00

患者さんコーナー



金沢市 東 節子 様

4年前腰痛と歩行困難、いろんな治療と、長い間苦しい日々を過ごしてまいりましたが、友人から佐藤先生を知る事になり、即診察を受け手術を受けることとなりました。いろいろ心配はありましたが、この痛みからのがれる事が一番だと思い決心致しました。腰椎MD手術から一晩明け、昨日までの痛みが一切無く歩行可能になりました。魔法にかかったようでした。

それから一日一日が元気に向けての前進、そして退院。どうしても行きたかった2カ所の旅行も楽しく行く事が出来ました。歩ける事がこんなにスバラシイ事。佐藤先生、山本先生、看護して下さった皆様に感謝でいっぱいです。本当にありがとうございます。何人かの方がお話をうかがいたいとまいります。私の喜びを伝えていきます。私も70才半ば。少しでも長く楽しく生きればと思っております。皆様のおかげに感謝の日々です。



横浜市 太田 敬 様

拝復 金沢脳神経外科病棟の皆様に改めてお礼申し上げます。

そして、主治医であり術者であらせられる佐藤秀次院長先生には、御礼とともに、今はまったく後遺症も無く日常生活・スポーツ・仕事において、発病前と変わらないパフォーマンスを発揮できていると、すなわち術後4年の予後は大変良いことを、ご報告申し上げておきたいと思えます。

わたくしも4年前の夏、この「患者さんコーナー」に書かれている皆様と同様に、腰痛と間欠性跛行(ある期間歩いていると徐々に歩行が苦しく痛くなつて歩けなくなる。休むと再び可能となると)という腰椎脊柱管狭窄症の症状に苦しみ、この金沢脳神経外科病棟を訪れたのです。そして佐藤院長先生による手術を受け、今こうして元気に以前にもまして活躍?していられるという現実をみると、あの『金沢への手術の旅』は夢ではなかったのだと思うこのごろです。と言いますのは、わたくしは当時(そして幸運にも現在も)脳神経外科の医師(つまりは、ばかりながら佐藤院長先生と同じです)で神奈川

県の病院に勤務している身でありました。よつて症状・画像を自ら解析し、診断は腰部脊柱管狭窄症と自身及び同僚によつてつけたのです。あとは治療です。手術か否か?手術ならどの術式?で誰にやつてもらうか?

もつとも重要かつ微妙な問題です。しかしこの微妙かつ決定的な問題は、特段の時間を要することなくいわば瞬間的に決まりました。すなわちその少し前に、偶然に新たに買った脊椎の手術書『脳神経外科医のための脊椎手術(必須手技と合併症回避のコツ)』(メジカルビュー社)その教科書の佐藤秀次院長の記述された『腰椎椎間板ヘルニア摘出術』(p.149~p.157)の数ページが、これだ、この先生にこの術式でと僕を一気に取り込んだのでした。あまたの碩学(せきがく)・学問が広く深いこと。また、その人)がさまざまに記載されている手術式の森の中からこの一本の樹木を選んだのは、それは今思えば天啓であり、雷撃でありました。

いかに唐突であったか。金沢脳神経外科とわたくしが言うのと、みんな金沢八景(横浜近くの観光スポット)にそういう病院ありましたかという反応をすることからお分か

りと思えます。

あとは一瀉千里(いつしやせんり)…物事が速やかにはかどり進むこと。『金沢への手術の旅』。写真と教科書から想像したとおりの佐藤院長の口跡(こうせき)言葉使い)と外科医らしいその表情、そして麻醉科の先生がまず僕に大安心を与えてくれました(わたくしは、はじめて麻酔をかけられる側に回った)そして術後佐藤院長先生には『患者でありつつ研修医である』という特別の接遇をいただきました。楽しかったです。

入院生活はあつという間に過ぎ、このごろでは、ほんとうにあれば夢ではなかったのかとふと思ふことがあります。(もちろん麻酔はきれいに醒めています)。

今日、こうして元気に働きのながら、もう腰のことを気にすることがないので忘れてしまっていることもある(なんとという幸せ)、あらためてあの教科書との、すなわち佐藤秀次院長先生との、そして金沢脳神経外科病棟の皆様との出会いに、深謝申し上げるとともに貴院のさらなる発展を祈念する次第でございます。

脳卒中の予防・早期発見・ 早期受診の重要性を 知つとかんじ！

地域医療福祉部 地域医療連携課

9月14日に「脳卒中市民公開講座 知つとかんじ!! Know 卒中」が、北國新聞社20階ホールで開催されました。金沢大学附属病院 脳神経外科講師 内山尚之先生による特別講演「脳卒中 虎の巻!!」や当院職員による寸劇「脳卒中をいつ知るの? 今でしょ!!」、パネル展示、健康測定を行いました。

今回の市民公開講座のために結成した劇団は、地域の皆様に脳卒中の予防と早期発見早期受診の重要性をいかにわかりやすくお伝えするかをテーマに、何度も練習を重ね、この日を楽しみにしてきました。当日は約160名もの皆様にご来場いただき、時折起こるあたたかい笑い声にアドリフが飛び出すなど、さらなる笑いの渦が巻き起こり、会場一体が笑いに包まれました。この劇で培ったチームワークを今後はチーム医療に活かし、引き続き地域医療の貢献に励みたいと思います。



随意運動介助型電気刺激装置 (IVES: Integrated Volitional control Electrical Stimulator)の導入

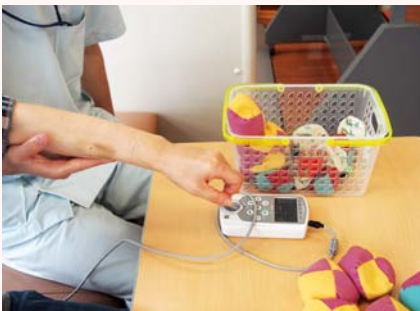
リハビリテーションセンター 作業療法士 森田 弘一

ニューロリハビリテーション(脳神経の回復に基づいたリハビリテーション)という分野のアプローチの1つとして、電気刺激を用いて筋肉の収縮を促す方法があります。

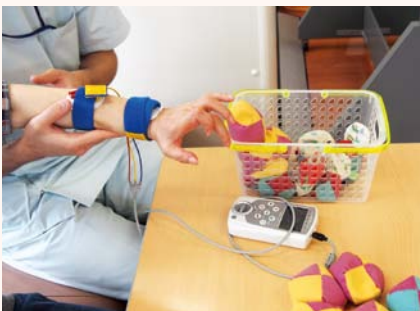
今回導入したIVESには、外部から電気刺激を与えて筋肉を収縮させる方法と、患者さん自身の筋肉を動かすわずかな動きを検知し、電気刺激を与えて動きを大きくする方法の2つがあります。単純な電気刺激を与える前者に対し、随意的な筋肉の収縮を伴う後者の方がより効果的と言われていています。IVESは「①筋肉の収縮をスイッチとして随意運動を増幅する治療が可能であり、緻密な制御と運動学習が可能」、「②装着・操作が容易」、「③同一の筋肉部位で筋収縮の感知と電気刺激を行えるので誤作動が少ない」という特徴があり、従来は不

可能であった動きにまで機能を拡大でき、脳卒中麻痺肢の機能改善効果が認められています。

当院では今年の7月よりIVESを導入しました。このIVESには電気刺激を与える条件として対象筋の収縮や対象とは異なる筋の収縮によるものや、下肢にて踵が床から離れたことをセンサーにより検出することなど、複数の制御方法があります。全体的に適切となる訳ではありませんが、脳卒中や脊髄損傷などの中枢神経系疾患の麻痺が重度の方から軽度の方まで対象となります。適応となる方に対しては、積極的に導入していきたいと思っております。



IVES装着前



IVES装着後



治療中